

# 有田市の子どもたちの状況

## 令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果から

全国学力・学習状況調査は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること」を目的に実施しています。これらの結果を見学児童の学力や学習状況を測る一つの指標として、全国の状況等をもとに分析し、成果と課題を検証するとともに、教育活動の充実や日々の授業改善を図り、児童生徒一人一人の学習状況の改善等につなげていきます。

### 1. 調査概要

◆調査実施日：令和8年4月23日（木）

中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」：令和8年4月23日（木）

中学校英語「話すこと」：令和8年5月1日（金）



※中学校英語は、4技能（聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと）の全てでCBTが導入され、平均IRTスコアで結果が示されています。また、全国で日時を分散して実施しています。

CBT…Computer-based Testing：コンピュータ使用型調査の略。

IRT…Item Response Theory：項目反応理論の略。児童生徒の正答・誤答が問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。この理論に基づいて、各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準に算出されたもの。

◆調査内容：①教科に関する調査〔国語、算数・数学、中学校英語〕

②生活習慣や学習環境等に関する質問調査

・児童生徒に対する調査〔学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査〕

・学校に対する調査〔指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査〕

◆対象学年：小学校6年生及び中学校3年生

◆市内実施学校数及び実施人数：小学校調査…7校（159人） 中学校調査…1校（192人）

### 2. 教科に関する調査結果概況

◆各教科における平均正答数と平均正答率

|       | 平均正答数（問） |        |              | 平均正答率（％）※中学校英語の数値は平均IRTスコア |       |            |
|-------|----------|--------|--------------|----------------------------|-------|------------|
|       | 有田市      | 県（公立）  | 全国（公立）       | 有田市                        | 県（公立） | 全国（公立）     |
| 小学校国語 | 8.3/13   | 8.0/13 | 7.9/13       | 64                         | 62    | 61         |
| 小学校算数 | 9.2/16   | 9.0/16 | 9.0/16       | 58                         | 56    | 56         |
| 中学校国語 | 8.7/15   | 9.0/15 | 9.6/15       | 58                         | 60    | 64         |
| 中学校数学 | 7.9/16   | 8.7/16 | 9.1/16       | 50                         | 54    | 57         |
| 中学校英語 | 3.6/9    | 4.2/9  | 4.5/9<br>国公立 | 470※                       | 486   | 499<br>国公立 |

■中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」（生徒1人あたり計22問）

・共通問題（7問）：全員が同じ問題を解きます（聞く2問、読む2問、書く3問）。【公開】

・ランダム問題（3問）：用意された9問（3技能×3問）の中から、生徒ごとに異なる3問が出題されます。【公開】

・非公開問題（12問）：経年変化の測定等のため、問題は公表されません。【非公開】

■中学校英語「話すこと」（生徒によって解く問題数に違いがあります）

・共通問題（2問）：全員が同じ問題を解きます。【公開】

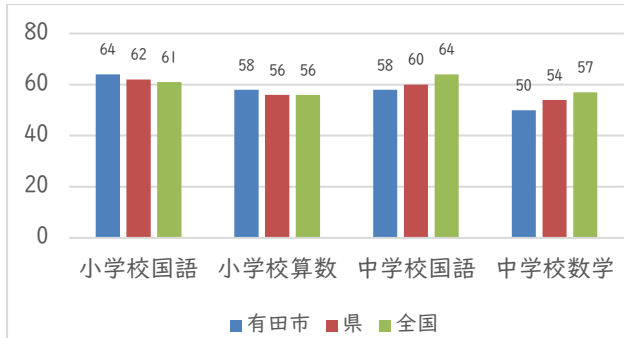
・ランダム問題（2問）：用意された5問（2問グループから1問、3問グループから1問）の中から、生徒ごとに異なる2問が出題されます。【公開】

・非公開問題（数問）：経年変化の測定等のため、問題は公表されません。【非公開】

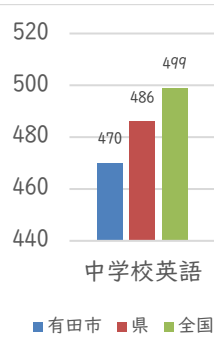
■結果公表されている「平均正答数」は、共通問題の結果数値です。

■個別には公表されない「ランダム問題」と「非公開問題」の解答データは、問題の難易度を考慮して公平な英語力を測定する「平均IRTスコア」の算出に活用されています。

## ◆平均正答率（グラフ）

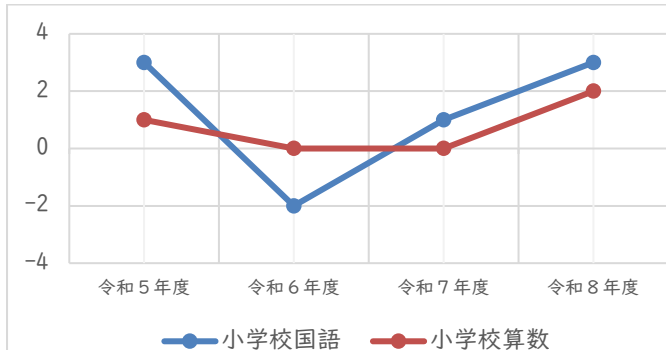


## ◆平均 IRT スコア

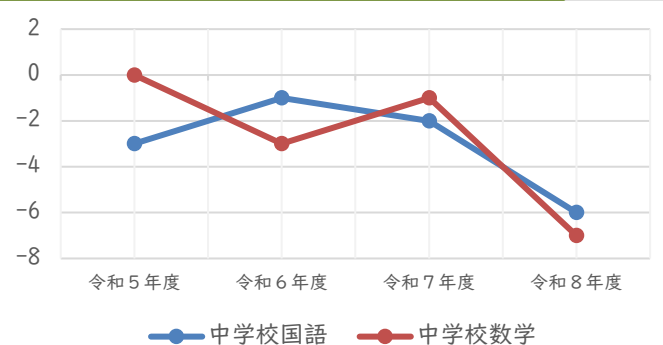


小学校は国語・算数ともに全国および県平均を上回る良好な結果となりました。一方で中学校は全教科で平均を下回っており、特に全国との差が大きい数学・英語を中心に、基礎・基本の定着に向けた指導の工夫に努めてまいります。

## ◆有田市の平均正答率と全国の平均正答率の差の推移



小学校は R7 からさらに上昇し、国語・算数ともに全国平均を上回りました。中学校は国語・数学ともに全国平均を下回り、課題が見られます。



## 3. 各教科に関する調査結果

### ◆国語

| 分類                        |                      | 区分                 | 小学校<br>国語 | 中学校<br>国語 |
|---------------------------|----------------------|--------------------|-----------|-----------|
| 内学<br>容習<br>指導<br>要領<br>の | 知識<br>及び<br>技能       | (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 | ◎         | ▼         |
|                           |                      | (2)情報の扱い方に関する事項    | ○         | ▼         |
|                           |                      | (3)我が国の言語文化に関する事項  | ／         | ／         |
|                           | 思考力、<br>判断力、<br>表現力等 | A 話すこと・聞くこと        | —         | ▼         |
|                           |                      | B 書くこと             | ◎         | —         |
|                           |                      | C 読むこと             | ◎         | ▼         |
| 評価の観点                     | 知識・技能                |                    | ○         | ▼         |
|                           | 思考・判断・表現             |                    | ○         | ▼         |
|                           | 主体的に学習に取り組む態度        |                    | ／         | ／         |
| 問題形式                      | 選択式                  |                    | ○         | ▼         |
|                           | 短答式                  |                    | ◎         | ▼         |
|                           | 記述式                  |                    | ◎         | ▼         |

◎…全国の平均正答率と比べて3pt以上高い

○…同程度（全国平均以上）

—…同程度（全国平均以下）

▼…全国の平均正答率と比べて3pt以上低い

小学校では、ほとんどの項目で全国平均を上回っています。特に「(1)言葉の特徴や使い方」「B書くこと」「C読むこと」や、問題形式の「短答式」「記述式」で高い成果が見られます。

対して中学校では、全ての項目で全国平均を下回っており、各領域や問題形式における課題が見られます。

#### 【小学校 国語】（◇できている ◆課題がある）

- ◇「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」〔2三イ〕  
(有田市正答率 59.7% 全国比+14.5pt)
- ◇「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」〔2四〕  
(有田市正答率 43.4% 全国比+9.9pt)
- ◆「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」〔1二(1)〕  
(有田市正答率 52.8% 全国比-7.4pt)

#### 【中学校 国語】

- ◇「表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる」〔3二〕(有田市正答率 93.8% 全国比+1.5pt)
- ◆「単語の活用について理解しているかどうかをみる」〔1三〕(有田市正答率 70.3% 全国比-15.1pt)
- ◆「表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる」〔3四〕  
(有田市正答率 38.0% 全国比-7.0pt)

## ◆小学校国語・課題の見られた問題

【1二(1)】有田市正答率 52.8% (県との差-4.6pt 全国との差-7.4pt)  
有田市無解答率 0.0% (県との差-0.3pt 全国との差-0.6pt [低い方が好成績])

|       |                                                                                                                 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問題の概要 | 【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する。                                                                                        |
| 出題の趣旨 | 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができているかどうかをみる。<br>(5・6年A話すこと・聞くことウ「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。」<表現・共有>) |

**正答** 選択肢2 (実際の音を示す)と選択肢5 (手元や口元を大きく映す)の両方を選択したもの。

**反応率の高かった誤答** 反応率 23.9%

選択肢5を選択しているが、選択肢2を選択していないもの。「大きく映すこと」は捉えているが、音声の工夫 (音を示す) を捉えきれていないと考えられます。

### ◆指導改善のポイント

#### ○資料を活用する場合

- ・音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだった場合に活用する

#### ○資料を用いる目的

- ・説明を補足する
  - ・伝えたいことを強調するなど
- これらを予想し考える学習活動が必要

学習指導に当たっては、資料の活用による効果を予想しながら考えられるよう指導することが大切です。また、目的や相手、状況などを踏まえて、話す内容と資料との整合、適切な時間や機会での資料の提示の仕方などに注意するよう指導する必要があります。

【動画の一部】

(1) 同野さんたちのグループは、「構成メモ」をもとに、「中」を次の「動画の一部」のようにさつえいしました。おどろきの(1)から(3)の間に答えよう。

5 4 3 2 1

① 草花で遊ぶ場所へ行き方を映像で示すことで、草花遊びへの関心を高めるようにしている。

② くき笛の実際の音を添えて示すことで、言葉の説明だけでは分かりにくい内容を伝わるようにしている。

③ くき笛を作る映像で比喩を示すことで、くき笛にしようといふたんばを見分けやすくしている。

④ 手元や口元を大きく映して映像で示すことで、くき笛の遊び方が伝わるようにしている。

⑤ 手元や口元を大きく映して映像で示すことで、くき笛の遊び方が伝わるようにしている。

【音声】

同野・水谷「音を鳴らして遊ぼう。」

同野「みなさん、この音を聞いてください。」

同野「これは何の音だと思いますか？」

水谷「これはたんばで作ったくき笛の音です。」

同野「どうしたらこんな音が出るんですか？」

水谷「くき笛は、たんばの花の部分を削り取って。」

水谷「片方のくきの先をつぶして作ります。」

水谷「つぶした方をくきでくぐらせ、風船をふくらませるように息をふきこむ。」

水谷「くき笛の音。」

水谷「このように音を出すことができます。」

水谷「くき笛の音がかわると、音の高さも変わります。いっしょに聞いてみましょう。」

水谷「くき笛の音。」

同野「友達といっしょに音を鳴らすと音が重なって、とても楽しいですね。」

## ◆中学校国語・課題の見られた問題

【3四】有田市正答率 38.0% (県との差-3.4pt 全国との差-7.0pt)  
有田市無解答率 11.5%  
(県との差-2.5pt 全国との差+0.8pt [低い方が好成績])

|       |                                                                                                                                 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問題の概要 | 書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く。                                                                        |
| 出題の趣旨 | 表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる。<br>(2年B書くことオ「表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。」<共有>) |

### 正答例

- ・<よい点や改善点>  
スケッチブックを「相棒」と表現したのはよかった。しかし、他にもふさわしい言葉があったかもしれない。
- ・<生かしたいこと>  
読み手の印象に残るように比喩を用いる。その際、選んだ言葉がふさわしいかどうかを考える。

### 正答の条件

次の条件を満たして解答している

- ①<よい点や改善点>の欄に、「相棒」と表現したことについてのよい点や改善点について、【1段落についての交流場面②】の内容を基にして書いている。
- ②<生かしたいこと>の欄に、<よい点や改善点>の欄に書いたことを踏まえて、比喩の用い方などについて、今後随筆を書くときに生かしたいことを書いている。

### ◆指導改善のポイント

- 「書くこと」<共有>
- ・読み手からの助言などを踏まえて自分が書いた文章のよい点や改善点を書き手自身が見いだすこと
- ・「共有」する際の視点は、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」の学習過程を踏まえ、当該学年で重点としている内容を中心に取り上げること

第2学年の共有では、特に、表現の工夫とその効果などの観点からよい点や改善点を見いだすことを求めています。

書き手が目的と意図に応じてどのような表現の工夫をし、それはどのような効果があったかなどについて検討するといった授業が考えられます。

四 石井さんは、自分が書いた文章について、山田さん、田中さんと交流し、この文章のよい点や改善点と、それを踏まえた今後随筆を書くときに生かしたいことをメモにまとめている。あなたならどのように書きまうか。【1段落についての交流場面①】をもとにして「メモ②」を書きなさい。

【1段落についての交流場面①】

石井 【1段落】、絵を描くことが趣味だということを印象付けよう、「工夫」したことが、どうだったか。

山田 絵を描く「私には才能がある」という一文で、趣味は何だろうと知りたくなり、先を説いたくなりました。

田中 私もそう思いました。

スケッチブックは今までの自分の気持ちが高まっていくものだから「相棒」といっていい比喩もあるのではないかと思います。

【1段落についての交流場面②】

石井 スケッチブックを「相棒」と表現したとはうそですか。

田中 「この時々の私の気持ちを相棒が教えてくれる」とスケッチブックを人のように表現しているのが印象に残りました。

山田 スケッチブックは今までの自分の気持ちが高まっていくものだから「相棒」といっていい比喩もあるのではないかと思います。

【メモ②】

よい点や改善点

「生かしたいこと」

【メモ①】

よい点や改善点

冒頭で「私は才能がある」と趣味が何を明かさないうことによつて手に先を読みたいと思わせることができた。

（生かしたいこと）

随筆を書くときは、出しの工夫をする。

## ◆算数・数学

| 分類            | 区分            | 小学校<br>算数 | 中学校<br>数学 |
|---------------|---------------|-----------|-----------|
| 学習指導要領の<br>領域 | A 数と計算        | ○         | —         |
|               | B 図形          | —         | ▼         |
|               | C 測定          | ▼         | —         |
|               | C 変化と関係／関数    | ○         | ▼         |
|               | D データの活用      | ○         | ▼         |
| 評価の<br>観点     | 知識・技能         | ○         | ▼         |
|               | 思考・判断・表現      | ◎         | ▼         |
|               | 主体的に学習に取り組む態度 | —         | —         |
| 問題形式          | 選択式           | ○         | ▼         |
|               | 短答式           | —         | ▼         |
|               | 記述式           | ◎         | ▼         |

◎…全国の平均正答率と比べて 3 pt 以上高い

○…同程度（全国平均以上）

—…同程度（全国平均以下）

▼…全国の平均正答率と比べて 3 pt 以上低い

小学校では、「C 測定」や「短答式」に課題が見られるものの、全体として全国平均と同程度以上となっています。特に評価の観点「思考・判断・表現」や問題形式の「記述式」で高い成果が見られます。

中学校では、全ての領域・観点・問題形式で全国平均を下回っており、全体的な基礎・基本の定着や指導の改善が求められます。

【小学校 算数】(◇できている ◆課題がある)

◇「異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」[3(3)]  
(有田市正答率 59.1% 全国比+15.1pt)

◇「単位分数の個数に着目し、数直線上の 1 を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる」[3(4)]  
(有田市正答率 74.8% 全国比+6.7pt)

◆「体積の意味について理解しているかどうかをみる」[1(3)]  
(有田市正答率 33.3% 全国比-6.8pt)

【中学校 数学】

◇「事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てることができるかどうかをみる」[6(2)]  
(有田市正答率 65.6% 全国比+0.6pt)

◆「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる」[8(2)] (有田市正答率 32.8% 全国比-13.3pt)

◆「累積度数の意味を理解しているかどうかをみる」[9(1)] (有田市正答率 28.1% 全国比-17.9pt)

### ◆小学校算数・課題の見られた問題

【1(3)】

有田市正答率 33.3% (県との差-4.4pt 全国との差-6.8pt)

有田市無解答率 3.8% (県との差+1.4pt 全国との差-0.4pt [低い方が好成績])

|       |                                                                                                                                                                                    |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問題の概要 | 1 cm <sup>3</sup> の立方体を 36 個使ってできた直方体の体積を書く。                                                                                                                                       |
| 出題の趣旨 | 体積の意味について理解しているかどうかをみる。<br>(5 年 B 図形(4)立体図形の体積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。ア 次のような知識及び技能を身に付けること。(ア)体積の単位 (立方センチメートル(cm <sup>3</sup> )、立方メートル(m <sup>3</sup> )) について知ること。) |

(3) 1 cm<sup>3</sup> の立方体が 36 個あります。36 個をすべて使って、高さが 4 cm の直方体を 1 つ作りました。

その直方体の体積は何 cm<sup>3</sup> ですか。

答えを書きましょう。

**正答** 36 と解答しているもの

**反応率の高かった誤答** 反応率 24.5%

144 と解答しているもの。36 や高さの数である 4 を使った計算の答えなどを体積としていと考えられます。体積は単位体積の立方体のいくつ分で表すことができることの理解に課題があると考えられます。

#### ◆指導改善のポイント

立方体の体積の求め方を理解していても、体積の意味を理解していない児童が見られます。そのため、単位や測定の意味を基に、立体の体積の意味を理解できるようにすることが重要です。指導に当たっては、ブロックなどの具体物を用いて直方体や立方体の体積を比較する活動が考えられます。その際、体積も面積などと同様に、単位の大きさを決めるとその幾つ分として数値化して捉えることができることを理解できるようにすることが大切です。

#### 1 cm<sup>3</sup> の立方体を使って 36 cm<sup>3</sup> になる立体を作る活動

ブロックを使って 36 cm<sup>3</sup> の形を作ってみましょう。

本当にどれも 36 cm<sup>3</sup> ですか。

どれも 1 cm<sup>3</sup> のブロックを 36 個使ったので、36 cm<sup>3</sup> です。

形が違っても、どれも 36 cm<sup>3</sup> なんだね。

体積は 1 cm<sup>3</sup> の幾つ分として表すことができることや、立体の形が違っても体積は同じであることを理解できるようにすることが大切である。

## ◆中学校数学・課題の見られた問題

【8(2)】有田市正答率 32.8% (県との差-12.7pt 全国との差-13.3pt)  
有田市無解答率 20.8% (県との差-4.7pt 全国との差-1.4pt [低い方が好成绩])

|       |                                                                               |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 問題の概要 | 図1において、 $AB=AP$ 、 $OB=OP$ ならば $\angle AOB=\angle AOP$ であることを、三角形の合同を基にして証明する。 |
| 出題の趣旨 | 筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる。                                                   |

(2) 前ページの手順で作図した $\angle POB$ が $\angle XOY$ の2倍の大きさであること、つまり $\angle AOB=\angle AOP$ であることを証明します。図1は、手順の④の図の点Aと点B、点Aと点Pを結んだ図です。図1において、 $AB=AP$ 、 $OB=OP$ は手順から直接わかることです。これらを仮定とし、次のことがらを証明します。

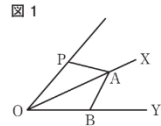


図1において、  
 $AB=AP$ 、 $OB=OP$  ならば  $\angle AOB=\angle AOP$  である。

上のことがらが成り立つことは、 $\triangle AOB \equiv \triangle AOP$ を示すことで証明できます。下の証明を完成しなさい。

証明

$\triangle AOB$ と $\triangle AOP$ において、



合同な図形の対応する角は等しいから、  
 $\angle AOB=\angle AOP$

### 正答例

・仮定より

$AB=AP$  ①

$OB=OP$  ……②

共通な辺だから、

$OA=OA$  ……③

①、②、③より、3組の辺がそれぞれ等しいから、

$\triangle AOB \equiv \triangle AOP$

(正答の条件)

次の(a)、(b)、(c)、(d)とそれぞれの根拠を記述し、証明しているもの。なお、ここで根拠として求める記述は、正答例に記述されている程度のもとする。

(a)  $AB=AP$  (b)  $OB=OP$

(c)  $OA=OA$  又は  $OA$  共通

(d)  $\triangle AOB \equiv \triangle AOP$

反応率の高かった誤答 反応率 10.9%

仮定として、結論である $\angle AOB=\angle AOP$ を用いているもの。

### ◆指導改善のポイント

事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切です。

授業では、生徒が証明を書き終えた後に、その証明を振り返る活動を取り入れることが考えられます。その際、筋道立てて説明ができているか、根拠は明確であるか、記号や用語の使い方は適切かなどの視点で、証明を評価・改善できるように指導することが大切です。

## ◆英語

| 分類        | 区分              | 中学校<br>英語 |
|-----------|-----------------|-----------|
| 学習指導要領の領域 | (1) 聞くこと        | —         |
|           | (2) 読むこと        | ▼         |
|           | (3) 話すこと [やり取り] | ▼         |
|           | (4) 話すこと [発表]   | ▼         |
|           | (5) 書くこと        | —         |
| 評価の観点     | 知識・技能           | ▼         |
|           | 思考・判断・表現        | ▼         |
|           | 主体的に学習に取り組む態度   | —         |
| 問題形式      | 選択式             | ▼         |
|           | 短答式/口述式         | ▼         |
|           | 記述式/口述式         | —         |

◎…全国の平均正答率と比べて 3pt 以上高い

○…同程度 (全国平均以上)

—…同程度 (全国平均以下)

▼…全国の平均正答率と比べて 3pt 以上低い

中学校英語では、領域・観点・問題形式の全ての項目で全国平均を下回っており、全体的に明確な課題が見られます。

特に「読むこと」「話すこと」の領域において、さらなる指導の工夫・改善が必要です。

【中学校 英語】(◇できている ◆課題がある)

◇「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる」[14]

◆「社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうかをみる」[5]

(有田市正答率 33.3% 全国比+5.5pt)

◆「音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる」[15(1)]

(有田市正答率 44% 全国比-11.2pt)

(有田市正答率 22.7% 全国比-19.6pt)

## ◆中学校英語・課題の見られた問題

【5】有田市正答率 44.4% 県との差-7.4pt 全国との差-11.2pt

|       |                                         |
|-------|-----------------------------------------|
| 問題の概要 | 住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する。 |
| 出題の趣旨 | 社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうかをみる。    |

<問題文>

あなたは、「住みやすいまちづくり」についての意見交流会で、友達のための話を聞こうとします。話を聞いて、たけるが最も伝えたいことを、<解答欄>の1から4までの中から1つ選びなさい。



← 再生ボタンを押してください

【たけるのスピーチ】



<解答欄>

- ☐ 1 Many people from different countries are living in our city.
- ☐ 2 We need to help people from abroad with many different languages.
- ☐ 3 Our city improved the website for people from abroad.
- ☐ 4 People from abroad can get useful information from the website.

[スクリプト] Many people from different countries are living in our city. Some of them don't understand Japanese. So, there are some language problems. I think we need to help people from abroad with many different languages. Five years ago, our city made its website in Japanese and English. However, people from abroad wanted it in other languages too. Then, our city improved it. They can get useful information from the website now. It is important to help them with many different languages.

**正答** 2 と解答しているもの

**反応率の高かった誤答** 反応率 20.6%

4 と解答しているもの。取組の成果を、たけるが最も伝えたいことであると誤って捉えており、文章の構成を理解することができていないと考えられます。また、本問のようなまとまりのある内容の英語の音声聞くことに慣れておらず、聞き取ることができた情報をそのまま話し手が最も伝えたいことであると判断した生徒も含まれていると考えられます。

### ◆指導改善のポイント

話を聞いて、要点を捉えることができるようにするためには、話題を把握した上で、意見とその理由、問題提起とその解決策の提案など、文章の構成を意識して英語の音声を聞くように指導することが大切です。

文章の構成を理解するためには、“I think …” “We need to …” といった表現から、話し手が最も伝えたいことであると判断したり、文と文の関係が、改善するための取組とその取組の成果といった関係になっていることを判断したりすることが大切です。

授業では、英語の音声を聞いた後、音声スクリプトを読んで文章を確認し、要点を捉えるための手がかりとなる語句や表現に着目して、再度、英語の音声を聞かせるといった活動を取り入れることも考えられます。徐々に生徒が自分の力で音声を聞いて要点を捉えることにつなげていくことが重要です。

英語を聞いた後では、聞き取った複数の情報を比較したり、文と文との関係を検討したりして、話し手が最も伝えたいことを捉えることが大切です。また、話し手が最も伝えたいことは何か、なぜそう考えるのかをペアやグループで話し合う際に、考えや意図を伝える表現や、例示をするための表現などに着目させることで、文章の構成を理解させることが大切です。

# 児童生徒質問調査の結果から

## 基本的生活習慣に関すること

| 質問項目<br>(※「している/どちらかといえばしている」と答えた割合) | 小6         |           |           | 中3         |           |           |
|--------------------------------------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|
|                                      | 有田市<br>(%) | 全国<br>(%) | 差<br>(pt) | 有田市<br>(%) | 全国<br>(%) | 差<br>(pt) |
| 朝食を毎日食べていますか                         | 86.5       | 93.3      | -6.8      | 84.4       | 90.9      | -6.5      |
| 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか                   | 83.5       | 82.8      | +0.7      | 83.4       | 80.5      | +2.9      |
| 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか                  | 84.6       | 90.7      | -6.1      | 92.7       | 92.4      | +0.3      |

小6・中3ともに「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」割合は全国平均を上回り、就寝習慣の維持が見られる一方、「朝食を毎日食べていますか」については小6・中3ともに全国平均を下回っており課題が見られます。

朝食は、脳・体・心の健康に深く関わる一日の始まりに欠かせない大切な習慣です。各学校においては、児童生徒の発達段階に応じて、授業等で自身の健康について考える機会をつくるとともに、引き続き必要な情報を発信し、家庭との連携・協力のもと取組を進めていきます。



## 挑戦心、達成感、自己有用感等に関すること

| 質問項目<br>(※「当てはまる/どちらかといえば、当てはまる」と答えた割合) | 小6         |           |           | 中3         |           |           |
|-----------------------------------------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|
|                                         | 有田市<br>(%) | 全国<br>(%) | 差<br>(pt) | 有田市<br>(%) | 全国<br>(%) | 差<br>(pt) |
| 自分には、よいところがあると思いますか                     | 85.9       | 85.6      | +0.3      | 88.6       | 84.0      | +4.6      |
| 将来の夢や目標を持っていますか                         | 85.3       | 81.8      | +3.5      | 66.1       | 67.6      | -1.5      |
| 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか     | 87.2       | 70.6      | +16.6     | 90.6       | 71.9      | +18.7     |
| 学校に行くのは楽しいと思いますか                        | 90.2       | 85.7      | +4.5      | 94.8       | 85.4      | +9.4      |
| 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか               | 79.8       | 77.9      | +1.9      | 79.1       | 78.6      | +0.5      |

## 学習習慣、学習環境等に関すること

| 質問項目<br>(※「している/どちらかといえば、している」と答えた割合)                                        | 小6         |           |           | 中3         |           |           |
|------------------------------------------------------------------------------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|
|                                                                              | 有田市<br>(%) | 全国<br>(%) | 差<br>(pt) | 有田市<br>(%) | 全国<br>(%) | 差<br>(pt) |
| 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか                            | 81.6       | 79.4      | +2.2      | 87.5       | 78.2      | +9.3      |
| 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たり1時間以上勉強をしている割合（学習塾・家庭教師・インターネット活用も含む）               | 48.4       | 49.9      | -1.5      | 54.2       | 61.6      | -7.4      |
| 昼休みや放課後に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、週に1回以上学校図書館・学校図書室（電子図書館を含む）に行く割合 | 21.5       | 17.6      | +3.9      | 16.7       | 7.8       | +8.9      |

「先生や学校の大人に相談できる」「学校に行くのが楽しい」などの項目で、小6・中3ともに全国平均を大きく上回っており、学校生活における安心感や自己有用感の高さがうかがえます。また、「自分で学び方を考え、工夫する」や「学校図書館に行く」割合も小・中ともに高く、主体的に学習に取り組む姿勢が見られます。一方で、中3の「平日の学習時間（1時間以上）」は全国平均を下回っており、家庭学習を含めた学習習慣の定着が課題となっています。

各学校においては、良好な人間関係や主体的な学びの姿勢を育みながら、児童生徒一人一人の自律的な学習習慣の定着を目指し、指導の充実や支援に向けた取組を進めていきます。

## ICT を活用した学習状況に関すること

| 質 問 項 目<br>(※「 <b>そう思う/どちらかといえば、そう思う</b> 」と答えた割合)       | 小 6        |           |           | 中 3        |           |           |
|---------------------------------------------------------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|
|                                                         | 有田市<br>(%) | 全国<br>(%) | 差<br>(pt) | 有田市<br>(%) | 全国<br>(%) | 差<br>(pt) |
| 5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したと回答した割合 | 52.7       | 43.0      | +9.7      | 94.8       | 55.1      | +39.7     |
| ICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか   | 69.9       | 69.5      | +0.4      | 78.1       | 69.4      | +8.7      |
| ICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション(発表スライド)を作成することができると思いますか      | 77.3       | 74.6      | +2.7      | 85.9       | 80.0      | +5.9      |

## 主体的・対話的で深い学びからの授業改善に関する取り組み状況に関すること

| 質 問 項 目<br>(※「 <b>当てはまる/どちらかといえば、当てはまる</b> 」と答えた割合)                               | 小 6        |           |           | 中 3        |           |           |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|
|                                                                                   | 有田市<br>(%) | 全国<br>(%) | 差<br>(pt) | 有田市<br>(%) | 全国<br>(%) | 差<br>(pt) |
| 5年生まで(1、2年生のときに)に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか | 68.1       | 66.4      | +1.7      | 67.8       | 65.5      | +2.3      |
| 5年生まで(1、2年生のときに)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか                           | 82.2       | 77.6      | +4.6      | 85.5       | 78.8      | +6.7      |
| 5年生まで(1、2年生のときに)に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか                 | 78.0       | 73.4      | +4.6      | 74.0       | 70.8      | +3.2      |
| 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか                              | 85.9       | 78.4      | +7.5      | 81.8       | 79.0      | +2.8      |

「ICT機器をほぼ毎日使用した」割合が中3で+39.7pt、小6で+9.7ptと全国平均を大きく上回るなど、ICT端末の活用が着実に定着しています。また、情報を整理したりプレゼンテーションを作成したりする意識も高く、ICTを「学びのツール」として活用する力が身についています。

さらに、「課題解決に向けて自分から取り組む」や「学習内容を見直して次につなげる」といった主体的・対話的な学びに関する項目においても、小6・中3ともに全国平均を上回る良好な結果となりました。

各学校においては、こうしたICTの活用と主体的な学びの姿勢を基盤として、さらに子供たちが考えを深めたり伝え合ったりできるよう、各教科等における授業改善や指導の充実に向けた取組を進めていきます。

## 地域や社会に関わる活動の状況等に関すること

| 質 問 項 目<br>(※「 <b>当てはまる/どちらかといえば、当てはまる</b> 」と答えた割合) | 小 6        |           |           | 中 3        |           |           |
|-----------------------------------------------------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|
|                                                     | 有田市<br>(%) | 全国<br>(%) | 差<br>(pt) | 有田市<br>(%) | 全国<br>(%) | 差<br>(pt) |
| 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか                          | 85.2       | 80.1      | +5.1      | 82.8       | 72.3      | +10.5     |

「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した割合が、小6、中3ともに全国平均を大きく上回る非常に高い結果となりました。地域社会への関心の高さや、参画意欲の深まりが見られます。

本市では全小中学校にコミュニティ・スクールを導入しており、地域の人々と協働した多様な活動を通じて、子供たちの学びや気づきが着実に育まれています。

今後も地域とのつながりを大切にした教育活動を推進し、これからの社会を生きるために必要な資質・能力を育むとともに、郷土に対する誇りや愛情を培う取組を進めてまいります。